

# MMSE・FAB検査マニュアル

くもん学習療法センター

# MMSE検査マニュアル

## 準備物

- ① Mini-Mental State examination (MMSE) シート
- ② 被験者・検査者用筆記具 (鉛筆・消しゴム)
- ③ 時計または鍵
- ④ 白紙 (A 5程度)

## 検査実施上の留意点

### ●全体を通して

- ・検査の客観性を維持するために、全ての検査者が、全ての被験者に同じ対応をすることが大切です。
- ・検査は被験者の体調が良い時に実施してください。
- ・質問のことは変更しないでください。
- ・最後の課題まで実施します。質問後、被験者から質問されても「思った通りでいいですよ」と答え、質問に答えないようにしてください。
- ・10秒たっても何も答えられないときは0点として次の検査に進みます。被験者を正答に導かせるようなヒントは出さないようにしてください。
- ・検査者は被験者の答えを検査シートの「回答」欄に記録し、後で確認できるようにします。
- ・身体的条件により検査ができない項目に関しては省略します。(検査シートには省略理由を明記)
- ・聴覚障害のある方の場合、検査8は省略します。それ以外の検査項目に関しては質問および指示を書いたものを見せて検査を実施します。(質問および指示をしたら書いたものは伏せるようにしてください)
- ・言語障害のある方の場合、言葉で答える検査項目に関しては言葉で答える代わりに文字で書いていただくようにしてください。文字の書けない方は検査を省略します。(検査シートに理由を明記)
- ・検査を終了したら各質問の得点を「得点」欄に記入し、合計得点をシート右上の枠内に書き入れます。

### ●検査を始める前に

- ・検査を始める際、「頭健康診断をしましょう」「簡単なクイズのようなものをしましょう」と言って、場の雰囲気を和らげます。検査・テストという言葉は被験者に不安感を抱かせますので使わないように

してください。

- ・初めに検査日・被験者名・検査者名を記入し、それ以外の項目は検査前または検査後に記入します。

### ◆検査 1番 (時間の見当識)

「今日は何日ですか」  
「今年は何年ですか」  
「今の季節は何ですか」  
「今日は何曜日ですか」  
「今月は何月ですか」

(留意点)

- ・最初の質問で、被験者の回答に複数の項目が含まれていてもかまいません。その場合、該当する項目の質問は省きます。(例：最初の質問に被験者が「平成18年7月1日」と答えたら、その後「今の季節は何ですか」「今日は何曜日ですか」の質問だけをします。
- ・「今年は何年ですか」の回答は、西暦・年号のどちらでも可とします。被験者に聞かれたらどちらでもよいと伝えます。
- ・「今の季節は何ですか」で、季節の切りかわりの時期の場合はどちらでも可とします。また「初冬」「梅雨」なども正解とします。

### ◆検査 2番 (場所の見当識)

「ここは都道府県でいうと何ですか」  
「ここは何市(町・村・区など)ですか」  
「ここはどこですか(\*)」  
\*回答が地名の場合、「この施設の名前は何ですか」と質問をかえる。正答は建物の名前・施設名のみとする。  
「ここは何階ですか」  
「ここは何地方ですか」

(留意点)

- ・「ここはどこですか」の回答が地名の場合、「この施設の名前は何ですか」と質問をかえてください。正答は建物の名前・施設名のみとします。
- ・最初の質問で、被験者の回答に複数の項目が含まれていてもかまいません。その場合、該当する項目の質問は省きます。

- ・被験者が何階に連れてこられたか明らかにわかりえないような場合は「ここは何階ですか」の質問を「いつもいっしょのところは何階ですか」とかえてください。(検査シートの質問の表記を修正)
- ・平屋の場合は「1階」を正答とします。
- ・地方については、その地方の一般的な呼び名であれば可とします。「北関東地方」「首都圏」「上越」「中越」などでも、また県内の一部をさす「県南地方」でも正答とします。「市町村」「建物名」「施設名」「地方名」などは、検査実施前に、最も普通の回答を確認しておき、複数の検査者がいる場合は合意をとっておきます。

### ◆検査 3番 (即時想起)

「今から私がいう言葉を覚えてくり返し言ってください。『さくら、ねこ、電車。』はいどうぞ」

\*検査者は3つの言葉を1秒に1つずつ言う。その後、被験者にくり返させ、この時点でいくつ言えたかで得点を与える。

正答1つにつき1点。合計3点満点。

「今の言葉は、後で聞くので覚えておいてください」

\*この3つの言葉は、質問5で再び復唱させるので3つ全部答えられなかった被験者については、全部答えられるようになるまでくり返す(ただし6回まで)

(留意点)

- ・検査者は3つの言葉を1秒に1つずつ言います。その後、被験者にくり返していただき、この時点でいくつ言えたかで得点を与えます。正答は1つにつき1点で、合計3点満点になります。
- ・1回目だけで得点をつけます。順番が違ってても正解とします。
- ・全てを言えなかった場合、3つとも言えるようになるまでくり返します。(ただし、6回まで)

### ◆検査 4番 (計算)

「100から順番に7をくり返しひいてください」

\*5回くり返し7を引かせ、正答1つにつき1点。合計5点満点。

正答例 93 86 79 72 65

(留意点)

- ・質問の意味が理解できていない場合、または質問のくり返しを求められた場合、「100から順番に7をくり返しひいてください」とくり返し言います。「100ひく7は？」と尋ねません。
- ・答えが止まってしまった場合は「それから」と言って促します。
- ・答えが全くでない、また不穏・体調不良等でこの課題の継続が困難な場合は、無理をせず途中で中止してください。
- ・途中で誤答になっても、次の回答が「ひく7」になっていれば正答とします。  
例えば、93→87→80→73→65の場合、○→×→○→○→× で3点となります。

### ◆検査 5番 (遅延再生)

「さっき私がいった3つの言葉は何でしたか」

\*質問3で提示した言葉を再度復唱させる。

(留意点)

- ・正答1つにつき1点とします。
- ・言葉の順番が違ってても正解とします。

### ◆検査 6番 (物品呼称)

時計(又は鍵)を見せながら「これは何ですか？」  
鉛筆を見せながら「これは何ですか？」

\*正答1つにつき1点。合計2点満点。

(留意点)

- ・正答1つにつき1点とします。

### ◆検査 7番 (文の復唱)

「今から私がいう文を覚えてくり返し言ってください。みんなで力を合わせて綱を引きます」

\*口頭でゆっくり言い、くり返させる。1回で正確に答えられる場合1点を与える。

(留意点)

- ・指示文は、文節で区切らず、ゆっくり、はっきりと一気に読みます。
- ・正しく復唱できた場合に1点とし、1回のみで評価します。

#### ◆検査 8番 (口頭指示)

「今から私がいう通りにしてください。  
右手にこの紙を持ってください。それを半分に折りたたんでください。そして私にください」  
\*紙を机の上に置いた状態で教示を始める。  
\*各段階毎に正しく作業した場合に1点ずつ与える。  
合計3点満点。

(留意点)

- ・A5 (A4の半分)程度の紙を用意し、作業していただきます。
- ・教示は一度に行い、一作業ずつ教示・確認してはいけません。
- ・質問はゆっくり、はっきり言います。
- ・半身麻痺の方については、机の上に置いてやっていただきます。完成したら、検査者に手渡ししていただくようにしてください。
- ・右片麻痺の方の場合は、“右手”を“左手”に言い換えてください。

#### ◆検査 9番 (書字指示)

「この文を読んで、この通りにしてください」  
\*被験者は音読でも黙読でもかまわない。実際に目を閉じれば1点を与える。

(留意点)

- ・教示文を指さしながら質問文を読み上げます。
- ・被験者が実際に目を閉じれば1点となります。

#### ◆検査 10番 (自発書字)

「この部分に何か文章を書いてください。どんな文章でもかまいません」  
\*検査者が例文を与えてはならない。意味のある文章ならば正答とする。  
(\*名詞のみは誤答、状態などを示す四字熟語は正答)

(留意点)

- ・身体的な障害で書く作業のできない方は口述筆記し、検査シートに“口述筆記”と明記します。
- ・検査用紙を折り、検査9の問題が見えないようにした検査シートを差し出します。
- ・質問の意味を理解していない、質問をくり返すよう問われた場合、もう一度教示をくり返し、ヒントは

出しません。

- ・主語がなくても述語が存在し、意味がある文を書いた場合、正答とします。文法・文字・読点の誤りは無視します。

#### ◆検査 11番 (図形模写)

「この図形を正確にそのまま書き写してください」  
\*模写は角が10個あり、2つの五角形が交差していることが正答の条件。  
手指のふるえなどはかまわない。

(留意点)

- ・2つの図形が、五角形でなかったり、離れていたりする場合は不正解とします。
- ・身体的な障害で書く作業のできない方は省略し理由を明記します。

# F A B 検査マニュアル

## 準備物

- ①前頭葉機能検査（F A B）シート
- ②検査者用筆記具
- ③ストップウォッチ

## 検査実施上の留意点

### ●全体を通して

- ・検査シートの1ページ目に記載された要領にしたがって検査を実施します。
- ・検査の客観性を維持するために、施設内の誰が、誰に対しても同じ対応ができるようにすることが大切です。
- ・検査は被験者の体調が良い時に実施してください。
- ・練習・本番の質問の言葉は変更しないでください。
- ・検査の本番に入ったら、最後の課題まで実施します。途中、被験者から質問されても「思った通りでいいですよ」と答え、質問に答えたり、教示を繰り返したりしないようにしてください。
- ・検査者は被験者の答えを検査シートに記録し、後で確認できるようにします。
- ・身体的条件により検査ができない項目に関しては省略して検査を実施します。（検査シートには省略理由を明記）
- ・聴覚障害のある方の場合、質問および指示を書いたものを見せて検査を実施します。（質問および指示をしたら書いたものは伏せるようにしてください）
- ・言語障害のある方の場合、言葉で答える検査項目に関しては言葉で答える代わりに文字で書いていただくようにしてください。文字の書けない方は検査を省略します。（検査シートに理由を明記）

### ●検査を始める前に

- ・検査を始める際、「頭の健康診断をしましょう」「簡単なゲームをしましょう」と言って、場の雰囲気や和らげます。検査・テストという言葉は被験者に不安感を抱かせますので使わないようにしてください。
- ・検査日・被験者名・検査者名を記入し、それ以外の項目に関しては検査前または検査後に記入します。

## ◆検査 1 番

### 【練習】

- 「これから言う2つのものは、どこが似ているか考えて教えてください。  
まずは練習してみますね。『電車』と『バス』」

### （留意点）

- ・正答が出た場合は「はい、結構です。次の質問も、同じように教えてください」と言い、本番に進めます。
- ・答えに戸惑ったり、「似ていない」などと言った場合や誤答の場合は「電車とバスは両方とも乗り物ですね。次の質問にも同じように教えてください」と言い、速やかに本番（質問①～③）に進めてください。
- ・沖縄県の場合は、電車が走っていないため、“『電車』と『バス』”を“『船』と『飛行機』”に言い換えてください。

### 【本番】

- 質問①「バナナ」と「みかん」は？
- 質問②「テーブル」と「いす」は？
- 質問③「チューリップ」、「バラ」と「菊」は？

### （留意点）

- ・質問①～③は、被験者の回答に、1つずつ正誤を答えるのではなく、「はい、結構です（ありがとうございます）それでは・・・」と言って、次の質問に進めていきます。
- ・15秒程度何も反応がない場合は「それでは・・・」と言って、次の質問に進めます。

## ◆検査 2 番

- 質問「“かきくけこ”の“か”から始まる言葉をできるだけたくさんあげてください。  
人の名前・地名などはいけません」

### （留意点）

- ・質問の中で人の名前・地名の例は出さないでください。
- ・質問を勘違いされた方（“かき”“きく”“くま”・・・など）には“か”から始まる言葉をできるだけたくさんあげてください」と再度伝える。
- ・最初の5秒間黙っているときは「例えば“かえる”とか」とヒントを出します。
- ・開始から10秒間黙っている時は“か”から始まる言葉を何でもよいから言ってみてください」と回答

を促します。その後、無言の状態が続いても声をかけずに、開始から60秒間は待ちます。「もうこれ以上はわかりません」などと言われたら、そこで検査2を終了します。

- ・制限時間は60秒、時間内で10語言えたら終了します。時間はストップウォッチで計ります。
- ・被験者に、1分間という時間制限を意識させる必要はありません。
- ・同じ単語のくり返しは1語とカウントします。名詞・形容詞・副詞・動詞のいずれでも合っていれば得点になります。

### ◆検査 3番

●質問「あなたは右利きですか、左利きですか」(以下、被験者が右利きの場合を想定)

(留意点)

- ・被験者の利き手を聞き、右利きの場合は、検査者は左手で(被験者と検査者が鏡の状態になるように)以下の指示①～③を行う。
- ・片手が不自由の方の場合は、利き手をはっきりしているのでこの質問はしません。

●指示①「私がやることをよく見ていてください」

(留意点)

- ・検査者は右手の手のひらを上にして机の上に置き、  
イ) 自分の左手をグーにして、自分の右手のひらをたたき、  
ロ) 次にその左手をパーにして(手刀で)、自分の右手のひらをたたき、  
ハ) 最後に、左手をパーのまま、手のひら同士を合わせる(拍手)  
以上の連続動作を1組とし、それを3回くり返します。
- ・検査者はどちらの手でも連続動作がスムーズにできるようにしておいてください。
- ・検査者は口頭での連続動作の説明は絶対にしないでください。
- ・被験者が動作を言葉で説明しながら聞いてきた場合も「思った通りで結構ですよ」などと回答するか、回答できない旨を説明します。
- ・検査者が口頭での連続動作の説明なしで、被験者が言葉(グー・手刀・パーなど)を出しながら動作し

ている場合はよしとします。

- ・片手が不自由な方の場合、検査者は手のひらの代わりに机をたたきます。

●指示②「では、右手を使って同じことをしてみましょう。まず、私と一緒にやります。次にひとりだけでやっていただきますのでよろしくお祈いします。それでは一緒にやってみましょう」

(留意点)

- ・検査者は被験者と一緒に、上記イ)～ハ)の連続動作を3回くり返します。
- ・指示②ができない場合でも指示③に進みます。

●指示③「今度はひとりでやってみましょう」

(留意点)

- ・途中でやめてしまった方には「もう少し続けてください」と連続動作をくり返していただくように促します。
- ・途中で間違えたら、その時点で終了します。

### ◆検査 4番

【練習】

●指示①「次のゲームは2つの約束があります。1つ目の約束は、私が指で1回ポンとたたいたら、続けて自分の指で2回ポンポンとたたいてください。わかりましたか？」

(留意点)

- ・被験者が指示を理解したかどうか確認して練習します。検査者が指を動かしてからは教示をくり返しません。
- ・ポン・ポン・ポン(1-1-1)とタップし、1回ごとに被験者に続けて指でタップしていただきます。(正解は2-2-2)
- ・指示①ができなかったら(理解できなかったら)指示②には進まず、0点とします。その際、検査シートの採点欄の空白部分に“指示①できず”と記入しておきます。
- ・被験者のタップする指はどちらでもかまいません。検査者は利き手でないほうの指でタップします。(指示②③も同じ(←本番(指示③)では記録をとりながらタップするため))

**【練習】**

●指示②「2つ目の約束は、私が指で2回ポンポンとたたいたら、自分の指で1回ポンとたたいてください」

(留意点)

- ・指示①と同様に、被験者が指示を理解したかどうか確認して練習します。検査者が指を動かしてからは教示をくり返しません。
- ・ポンポン・ポンポン・ポンポン(2-2-2)とタップし、1回ごとに被験者に続けて指でタップしていただきます。(正解は1-1-1)
- ・指示②ができなかったら(理解できなかったら)、本番(指示③)には進まずに0点とします。その際、検査シートの採点欄の空白部分に“指示②できず”と記入しておきます。

**【本番】**

●指示③「では今の2つの約束を使って、私に続いて、自分の指でたたいてください」

(留意点)

- ・本番前に、約束の確認を求められても「思った通りでいいですよ」などと答え、約束の確認はしません。
- ・検査者は検査シートに記載された回数を指でタップし、1回ごとに被験者に続けて指でタップしていただきます。
- ・途中で間違えてもやり直さずに、最後まで課題を終わらせるようにします。
- ・検査シートの□の欄には被験者のタップ数を記録しながら検査を行います。
- ・検査者と同じ回数指でタップしてしまうことが続けて4回以上ある場合は0点になります。また全くたたかない・全て1回(2回)たたき、ただたたいている場合も0点になりますのでご注意ください。

## ◆検査 5番

**【練習】**

●指示①「今度は約束が変わります。1つ目の約束は、私が指で1回ポンとたたいたら、同じように自分の指で1回ポンとたたいてください」

(留意点)

- ・被験者が指示を理解したかどうか確認して練習します。検査者が指を動かしてからは教示をくり返しません。
- ・ポン・ポン・ポン(1-1-1)とタップし、1回ごとに被験者に続けて指でタップしていただきます。
- ・指示①ができなかったら、指示②には進まずに0点とします。その際、検査シートの採点欄の空白部分に“指示①できず”と記入しておきます。

**【練習】**

●指示②「2つ目の約束は、私が指で2回ポンポンとたたいたら、あなたはたたかないでください」

(留意点)

- ・被験者が指示を理解したかどうか確認して練習する。指を動かしてからは教示をくり返しません。
- ・ポンポン・ポンポン・ポンポン(2-2-2)と指でタップします。(正解は0-0-0)
- ・指示②ができなかったら(理解できなかったら)、本番(指示③)には進まずに0点とします。その際、検査シートの採点欄の空白部分に“指示②できず”と記入しておきます。

**【本番】**

●指示③「では今の2つの約束を使って、私に続いて、やってみましょう」

(留意点)

- ・本番前に、約束の確認を求められても「思った通りでいいですよ」などと答え、約束の確認はしません。
- ・検査者は検査シートに記載された回数を指でタップし、1回ごとに被験者に続けて指でタップしていただきます。
- ・途中で間違えてもやり直さずに、最後まで課題を終わらせるようにします。
- ・検査シートの□の欄には被験者のタップ数を記録しながら検査を行います。
- ・検査者と同じ回数指でタップしてしまうことが続けて4回以上ある場合は0点になります。また全くたたかない・全て1回(2回)たたき、ただたたいている場合も0点になりますのでご注意ください。

## ◆検査 6番

●指示①「手のひらを上にして、両手を机の上  
のせてください」

(留意点)

- ・片手が不自由の方の場合は動かせるほうの手のひらを上にしてその手を机の上のせていただきます。

●指示②「私の手を握らないでください」

(留意点)

- ・検査者は、目をあわせずに何も言わずに、自分の両手（片手が不自由の場合は片手）を被験者の手のそばによせ、手のひらを合わせるようにそっとつけ、手を握らないでじっとしてられるか1～2秒間観察します。
- ・もし握ってしまった場合には「私の手を握らないでください」と、もう一度言ってから、同じ動作をくり返します。注意された後にも手を握った場合は0点に、手を握らなかった場合は1点となります。
- ・被験者が躊躇して、どうしてよいか聞いてできた場合は2点となります。